横芝は『ぶどう』の最適地

ぶどう整枝の第一人者土屋先生太鼓判！

前号で紹介した、ぶどう剪定講習は十二月八日、開拓組合矢沢亀吉氏宅農場を中心にして、各特例を挙げて、本当に手をとるように講師の指導を受けた。中には「何だ、この枝は丸っきり枯れていますね」と指適されて、折角立てた柱が実は枯木の支えにしかなっていなかったことに気がついて頭をかく一幕もあったが「此の土地はぶどうには極めて適している。むしろ本場の甲府以上である」と講師から折紙をつけられた受講者の顔は明るく輝いた。

写真上は「この枝は枯れているね、切ってしまいなさい」と自ら剪定して見せる講師の鋏に無駄な枝はどんどん切られていく」

写真下は「あの枝を中心にして分枝させなくてはいけない、実を成らせるので木を作らせるのではないんだ、材木屋ではないからね」と冗談を交えた講師の指導はなかなか手きびしい。

園芸共進会表彰授与式

農協園芸部主催による唐蜀黍と西瓜の、品種改良共進会は、去る八月、農協会議室で出品点数、唐蜀黍五〇点、西瓜三七点という、始めての企画としては極めて盛会に開催されたが、此の程、その入賞者の表彰式が挙行された。主な受賞者次の通り

唐蜀黍の部

◎特別賞　浅野勝雄（曾根合）瀬理芳雄（寺方）◎一等賞　竹ノ内晟好（中台）桜井美暢（於幾）

西瓜の部

◎特別賞、鈴木信雄（中台）伊藤恒夫（中台）◎一等賞　伊藤　静（中台）二等賞、勝又和男（中台）

尚、授与式終了後、入賞者がそれぞれ体験発表等を行ない有意義の中に散会した。

子豚の共販態勢

＝ようやく軌道に乗る＝

横芝町種豚組合は、発足以来二ケ年！優良種の導入、飼育管理の研究、仔豚の生産販売の合理化等に努力を続けて来ているが、特に「仔豚の販売は如何にしたら最も有利であるか」ということは、一番大きな課題となっていた。

農業総合相談所では、去る九月初旬以来数回に亘り、役員会、研究会等を開いて、種々懇談を交えてきていたが、九月下旬に至り〃多少の問題はあっても、生産計画に伴なう契約共販の体制を確立すべきである〃という結論に達し、九月二十六日を期して、契約共販の実施に踏み切ったのである。組合員の中には、まだ此の趣旨を了解し難いと見ている向もあるようだが、役員の方々や、相談所関係者とも篤と懇談を重ねて遂次共販体制に対する認識を深め協力の芽が見えつつあることは誠に喜ばしい限りである。

とかく、生産にのみ汲々として、販売計画が等閑に付され勝な農家の人が「販売に伴なっての生産」という自覚を持ちはじめたことは、極めて大きな関心事といえよう。今後は、此の傾向を助長する意味からも、共販計画をひとり種豚組合だけのものとせず、農協組合等の事業として取扱うべき時期に当面したと言えるのではあるまいか、資本面から見ても、対外交渉の点から見ても、是非農協組合の事業としての実施に移さなければなるまい。又それが本当の姿であろう。

さて、現在の出荷状況は、月三回、三百頭を目標にしているが、実施以来二ケ月に現われた成績は

十　月　三〇五頭
平均単価　七一〇〇円
頭当平均　一九kg
十一月　二六四頭
平均単価　七〇〇〇円
頭当平均　二〇kg

となっていて、ほぼ目標に近づいている。（写真は、出荷される仔豚＝農協本所で写す）

ヨイショッ　こいつは重いぞ―トラックに積込み

出荷にも良心的であれ、と技師の目は一頭一頭の姿を追う

蛤を育てましょう

九十九里蛤漁業振興協議会では、荒廃してゆく九十九里沿岸漁場の振興対策として、飯岡から大網までの共同漁業権区域内に種子蛤の放流を行っております。

横芝町漁業協同組合でも、去る十一月から十二月にかけて約五三〇貫の稚貝放流を行って蛤の増養殖を計っておりますが、此の増殖期間は大体一ケ年で、その期間は前記沿岸での蛤採取は絶対に禁止されておりますので改めて採取許可が告示（有線放送及広報で公示します）されるまでは絶対に蛤の採取は行わないように気をつけて下さい、若し、許可のないのに採取を行ないますと、漁業権侵害罪ばかりでなく窃盗罪という、いまわしい罪によって処罰されることになりますので子供さん方にも充分注意致されるようお願いをいたします。

しめなわ

注連縄（しめなわ）と書く神代の伝説、天の窟戸の故事から起ったもので、内外の境を示すもので、浄めの意味も持つようになり、正月や祭礼に用いる外、神社又これに関するものに用いる。七五三（しめ）縄とも書き、七本、五本、三本と縄から藁を垂らして間に白紙を切って垂らすのである。

正月にはこれを〈しめかざり〉と呼び、今では縄を丸く束ね、歯朶（うらじろ）譲葉（ゆずりば）昆布（こんぶ）橙（だいだい）海老（えび）等を添えて切紙を垂らし、門や入口に飾り、地方によっては、ほんだわら、串柿を添える所もある、東京等の軒並の続いた商店街では、軒先又は人道と車道の間に柱を建てて縄を張り藁と切紙を垂らして〈しめかざり〉として正月を祝っているのが見受けられる。

尚祭礼の時各戸にしめなわを張るのは関東方面に多く、関西には全く見かけられない。

◇◇◇　　◇◇◇

インフルエンザの予防について

寒さがきびしくなるにつれて、今年もインフルエンザの流行期に入ります。インフルエンザは、一旦流行するとものすごい勢いで広がっていきます。

例えば、昭和三十二年から三十三年にかけて流行したインフルエンザAII型によるアジアかぜは、全国で百万人以上がかかり、およそ八千人が直接これによって死亡しています。また、これが原因で他の病気を引起して死亡したものは二万人をうわまわりました。

ところでインフルエンザにかかると三日から一週間ぐらい四十度近くの熱が続きます。

この程度の熱ですと普通の健康な人ならば、たえられますが、老人や乳幼児それに日頃体の弱い人は肺炎などの病気を引き起して死亡することが多くなっています。インフルエンザの予防は、なんといっても、栄養に気をつけたり、休養を取ったりして日頃から節制に努めることがまず大事ですが、このように広く流行する病気は、社会全体の予防という意味から、皆んなが予防接種を受ける必要があります。

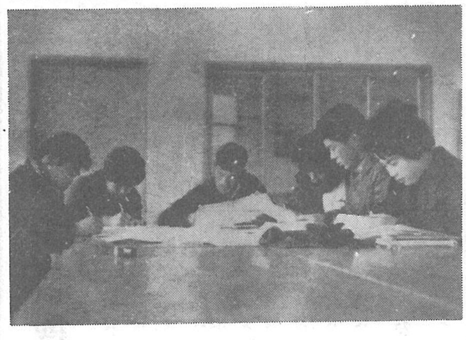
ちなみに三十七年にインフルエンザ特別対策として、全国的に予防接種を行なったところ三十八年には殆んど流行がありませんでした。このような予防接種は大変効果があり、たとえ病気にかかっても軽くすむことが多いのです。そしてこの効果は一年から二年ぐらい続きます。

なお、来年四月に入学するお子さんをお持ちのご家庭へは、保健所から予防接種の通知がありますので、必ず受けさせてください。

成人式典は　今年も明治神宮で挙行

青年団は記念文集を計画

成人式典は今年も代々木の明治神宮で行い終了後はNHK其他の見学をするという。青年団では記念感想文集を発行して該当者全員に贈るそうであるが、最近「式典に参加しなければ何の想い出も与えられない式典参加という人集めに走りすぎるのではないか」という批判も聞くだけに青年団の計画は「成人全員に及ぼす想い出の門出集として又自己の反省録ともなりまことに立派な計画である」と関係者は惜しまず支持を与えている、尚本年は四月一日生れまでに成年に達する者も式典に招待しているので該当者となる者も二五〇名と例年より上まわっている。



写真は「ほんとに良いことと言っているわ」と思わず原稿に喰い入りながら記念文集の編集に精を出す青年団の幹部諸君

正月の雑踏事故を防ぎましょう

昭和四十年の一月も十日となり、そろそろ、混雑も下火になりつつありますが、まだ初参り、初詣でなどで神社がにぎわったり、劇場や映画館なども着飾った人達での混雑が予想されます。

ところで、このように大勢の人達が集まるところでは、ちょっとした不注意が大きな惨事をまねくことがあります。

二重橋事件や新潟県の弥彦神社事件などもまだ記憶に新しい方も多いと思います。

こういう事故は人災であるかぎり、お互いが注意すれば防ぐことができるものなのです。正月早々不幸な事故が起らないよう混雑する場所では次の点に注意してください。

まず一番恐ろしいのは、群衆心理です。何か騒ぎが起きても、一度に走りだしたり、その場に急に集まったりのヤジ馬にならないよう注意してください。

次ぎに人ごみの中では絶対に人を押さないこと。特に階段口や狭い出入口ではかさねもちになって死亡するという例も多くなっていますので気をつけてください。

又人ごみでは、足もとが肝心です。ハキ物でもハイヒールやつっかけ、高げたなどは転ぶと危険ですのでなるべく避けてください。

それにお年寄りや子供さんは混雑する場所へはなるべく出かけないようにしましょう。

次ぎに不幸にして事故や騒ぎが起きたときは、おちついて警察官や係員の指示にしたがって行動してください。

大型自動車運転者免許
自動車整備士
電気技士

其他特別な技術資格を取得しょうとする青年は自衛隊に応募されるようにおすすめする、二ケ年の公務員生活で、衣食住総てを保証されながら、それぞれの資格が採れます。

希望の向は、至急役場総務課にお問合せ下さい。